

昭和31年度 県当初予算決る

畜産関係 2億950万円

3月8日から開会の岡山県定例議会に提案されていた昭和31年度岡山県当初予算は、原案どおり議決され、成立した。

このうち畜産関係は特別会計の競馬費を含めて2億952万2,688円で、その大要は別掲のとおりであるが、このうち31年度の重要施策をひろってみると次のとおりである。

重要施策

一. 牧野改良

牧野改良は畜産振興の根本問題であるので県は牧野法に基き、国の方針に則って年々公共牧野の改良に努力して来たが本年度は昨年導入した動力機械の活用を行うと共に国の展示牧野造成事業費補助金により、市町村及び農協等の共同管理する牧野のうち、今後改良事業を実施する団地の一部に改良牧野と高度集約牧野の改良造成展示施設を設けて一般に実施する改良事業の指標を行うこととなり、その実施目標面積は改良牧野55町歩高度集約牧野70町歩を予定している。

予算額 牧野動力機械開発に要する経費

2,580,000円

牧野改良に要する経費

3,394,000円

二. 集約酪農振興

昭和29年度にジャージー種牛を270頭、国から貸付を受け、更に昭和30年度において300頭の貸付を受けることとなり、3月末までに201頭が導入されているが、残余は輸入の遅延のため年度を越して導入されることになっている。美作地域は昨年12月10日に酪農振興法に基く集約酪農地域の指定を受け、昭和35年に地域内の頭数をジャージー種2,000頭、ホルスタイン種6,000頭に増殖することとなったの

でこれが指導の徹底を期することとなり、前記の100頭の導入に要する費用を含めて31年度に予算額763万9,000円を計上している。

なお北部酪農業協同組合の再建については県及び金融機関の協力のもとに、さきに決定された再建整備計画の実施が順調に進んでいる現状である。

三. 岡山県種畜場の整備

本県畜産振興の重要な役割を演ずる種畜場の将来のあり方は、畜産に関する試験研究の強化を主体として、それに伴う原々種畜の造成及び優秀種雄畜のけい養による改良の積極化と技術並びに経営指導の性格を強く打出すことが必要であるので岡山種畜場の移転を契機として従来種畜場を試験研究機関に転換する方針を決定し、30年度においては5,900万円をもって養鶏試験場の設置、津山畜産農場の拡充、牧野改良試験地の設置、蒜山地区の草生改良用に必要なる牧野改良用動力機械の導入を行って来たが、31年度においては酪農試験場の拡充に主体を置くこととなり、その他の施設については今後年次計画のもとに実施する方針である。

次に31年度畜産関係予算の財源をみると、家畜保健衛生所使用料1,292万1,500円、診療施設使用料8万9,730円、畜産業手数料321万7,800円、国庫補助金1,350万3,200円（有畜農家創設事業640万6,000円、牧野改良120万8,000円、小団地開発牧野改良77万4,000円、家畜伝染病予防255万1,200円、飼料自給経営地設置56万8,000円、種畜導入39万6,000円、畜産会補助60万円、畜産講習施設100万円）、雑収入1,201万3,000円、牧野試験地寄附200万円のほか岡山種畜場建設整備資金及び一般県費が見込まれている。

岡山畜産便り1956.05

昭和31年度畜産関係予算額

(カッコ内は前年度総予算額)

一. 畜産業費 54,646,000円 (68,489,920円)

1. 畜産奨励費 8,704,000円 (6,292,400円)

種畜検査費7万円, 畜産会補助60万円, 畜産共進
会費71万円, 種畜対策費547万円, 家畜家禽奨励費
104万5,000円, 養蜂奨励費9万円, 家畜人工授精講
習会費3万1,000円, 臨時種畜検査費3万6,000円,
畜産物販路拡張費65万2,000円

2. 有畜農業奨励費 14,814,000円 (22,447,420円)

小団地開発79万8,000円, 牧野改良費339万4,000
円, 有畜農家創設640万6,000円, 飼料自給経営地113
万6,000円, 有畜農家創設事務費20万円, 牧野動力
機械開発費288万円

3. 家畜伝染病予防費 4,780,500円 (3,884,000円)

馬の伝染性貧血6万6,600円, 県外移出検査11万
6,000円, 牛の結核病検査92万3,000円, 動物用薬事
2万8,200円, 気腫疽防遏26万5,600円, ブルセラ病
防遏66万7,500円, 家畜衛生試験所32万2,000円, 家
畜外部寄生虫37万円, 家畜内部寄生虫65万6,000円,
豚コレラ防遏39万4,600円, ひな白痢防遏77万1,000
円, 家畜衛生技術講習20万円

4. 家畜保健衛生所費 17,978,500円 (19,158,500

円)

5. 酪農奨励費 730,000円 (885,000円)

6. 集約酪農振興費 7,639,000円 (15,823,000円)

二. 岡山養鶏試験場費 5,849,725円

三. 千屋和牛試験場費 6,255,730円

(6,673,000円)

四. 津山酪農試験場費 6,485,582円

(5,379,000円)

五. 岡山種畜場移転整備費 67,950,651円

1. 岡山養鶏試験場費 37,194,100円

2. 津山酪農試験場整備拡充費 16,150,000

3. 津山酪農試験場蒜山分場設置費 4,311,969円

4. 牧野改良試験地費 4,150,000円

5. 岡山家畜人工授精所費 4,084,582円

6. 畜産講習施設設置費 2,060,000円

六. 競馬費 68,335,000円 (65,142,460円)

合計 209,522,688円

岡山養鶏試験場

起工式挙行

岡山市西長瀬の岡山養鶏試験場用地約1万4,000坪
の整地は2月初めから3月初めにかけて終了したが,
その後庁舎, 公舎, 鶏舎の入札が行われ, 庁舎は1,400
万円で松本建設, 公舎は900万円で共立土建, 鶏舎は
700万円で三木建設にそれぞれ落札し, 総額3,000万円
で建設することになった。4月5日午前11時から県及
び建設関係者などの参集を得て同所で起工式が挙
行され翌日から建設工事に着手した。同試験場建設費と

しては30年度において3,824万7,000円を計上してい
たが3,569万4,100円を31年度に繰越し, あらたに150
万円の新規事業とあわせて, 別掲のとおり3,719万
4,100円が31年度予算として計上されているが, つま
り30年度, 31年度2ヵ年計画で総事業費3,974万7,000
円で同試験場は10月末までに整備される。